

Ecola

イ・ヨ・ヲ

No. 22

発行 2015年5月17日

新緑に太陽の光がキラキラと反射して、心が弾むこの頃です。

新しい季節が始まり、お子さんや皆さんもいろいろな出会いや環境の変化があり大変なこともあったのではないかと思います。四季のある日本は美しいですが、自閉症児者には季節の変わらない国の方が幸せかも…なんて考えます^_^; 辛いニュースが多い昨今ですが、我が和歌山、南部町の梅干しおにぎりギネス認定などというちょっと明るいニュースもあります。

お出かけに相應しい気候になってきましたよ！皆さんお外に出かけましょう♪

和歌山県・和歌山市との対話集会

「和歌山県との対話集会」が行われました。

平成26年10月24日(金)

和歌山県庁南別館 3F C・D室にて

参加者は17名(内和歌山市分会16名)



でまとめていきます。皆さんのところにも「何か要望があれば、班長さんまで…」という案内を差し上げていると思います。何か困っている事や、行政への疑問・意見などがありましたら、ぜひ伝えて下さいね。

そうそう！和歌山県との対話集会はもう30年以上も続いているんですよ。ご存知でしたか？和歌山市とも長く続けていきたいですね。

あったかいん
だからあ♪



「和歌山市との対話集会」は

平成26年11月28日(金)

和歌山市中保健センター 3F 大ホールにて
行われました。参加者は20名でした。

対話集会は自閉症協会の中心的な行事の一つで、県や市の各課の担当の方々と直接意見を交換できる、年1回の機会です。

毎年この対話集会に向けて、秋口から、班長会議や役員会などでみなさんからの色々な疑問や意見を集め、県の理事会や役員会



バーベキュー&レクリエーション

平成 26 年 11 月 3 日 (月・祝)

参加者 36 名 (13 家族)

澄み切った青空のもと、和歌山市立少年自然の家（和歌山市加太）にてバーベキュー&レクリエーションが行われました。アスレチックやお楽しみのバーベキューそして宝探しでのお土産もあり、子どもも家族も大満足の 1 日でした。

参加された野村さん（父）の感想です

まだ子どもが小さいのでこの先の事など心配ですが、いろんな年齢の子どもさんの事を見ることが出来て何となく大きくなるとこんな感じになるのかなあ…と感じました。

天気の良い日に皆で外でふれあえたのが良かったです。また時間が合えば来年も参加したいです。



参加された二川さん（父）の感想です

今は電気やガスの時代ですから、薪で火をおこすのも大変ですがそれなりに楽しくやっています。

準備の間、子どもたちはアスレチックなどがある家族の広場へ遊びに行きました。障害のある人は、遊び方や興味のある物が人それぞれ違いますが、みんなそれぞれ楽しんでます。それは（みんな本当の仲間だと思っている）友達だから遠慮や気兼ねなどしないで楽しんで、ストレスも発散できるからです。

この自然の家は戦時中の要塞の跡で砲台などがあった所です。そのせいか大変見晴らしがよく、親子で自然の中で感性を育むよい機会になりました。

「お昼の支度が出来た。」と呼び出しがあったので、みんな広場から戻りました。よく遊んだのでお腹も空いています。焼きそばが出来ています。一人ずつ分けてもらい、まず焼きそばに舌鼓、次は焼肉バーベキュー、こういう所で食べるとまた格別、少し足りないかと思いましたが美味しいものは少し足りないくらいで丁度よい♪食事の後、前の広場で宝探しを楽しんで、全員で記念写真を撮って終了しました。

成年後見人制度の講演会

平成 26 年 11 月 18 日 (火)
中央コミュニティセンター 活動室 1
参加者 15 名 (13 家族)

「成年後見制度と法テラス業務について」

法テラス和歌山法律事務所 吉田 督弁護士

以前より「成年後見人制度の話が聞きたい!」という要望があり、今回法テラスさんのご協力をいただき、弁護士の吉田督先生にご講演いただきました。成人された本人とお母さんや、ご夫婦での参加もあり、関心の高さを感じました。

吉田先生よりご用意いただいたレジュメにそって「成年後見人制度とは?」からご説明いただきましたが、皆さん当然我が子に当てはめて考えていて、一通りの説明が終わった後の質問タイムでは、「ひとりっ子なんやけど、親が死んだら誰が手続きしてくれるの?」や「兄弟には面倒を掛けられないので…」等々、個々の家庭の心配事が質問として出されていました。

具体的な内容は、その時になってみないと分からないかもしれませんが、制度をよく理解して備えておく事が必要ですね。



成年後見制度レジュメより

どういった場合に成年後見を使うか

判断能力が不十分となった人が、「悪徳商法の被害にあっているかも知れない」、「虐待にあっているかも知れない」など、適切な財産管理が必要となったとき。

(認知症、知的障害、精神障害の人が対象で、身体障害のみの人は対象外)

日本司法支援センター「法テラス」のパンフレットより



困ったら法テラス。まずはお電話を。
(平日午前9時～午後9時 土曜日午前9時～午後5時)

法テラス サポートダイヤル
IP電話・PHSからは 03-6745-5600

0570-078374

あなたの街の法テラス
全国 **110**ヶ所

犯罪被害者 支援ダイヤル 0570-079714
IP電話・PHSからは 03-6745-5601

震災法テラス 支援ダイヤル 0570-078309
IP電話・PHSからは 03-6745-5601

日本司法支援センター

www.houterasu.or.jp

ボウリング大会

平成 27 年 2 月 1 日（日） 和歌山グランドボウル
参加者 39 名（内プレイヤー 25 名）

今年も真冬の一番寒い季節に開催されました。

「練習して下さい」の言葉にみんな真剣に投げはじめ、「練習終わり！」の声に気付かず投げ続けた人もいた程、みんな気合が入っていました。

会場のおじさんから説明を受けていたファール線ですが、センサーが敏感で、少し踏んだりすべり台の様な補助具が触れただけですぐ F（ファール）になり、1 回しか投げられなくて納得いかない・・・ボールがピンの所で詰まって返ってこない（おじさんがレーンの横を平均台の様に歩いて行って、詰まりを直してましたよね）・・・など、アクシデントもたびたびありましたが、みんな乱れる事なく楽しんだようです。でも、一番熱くなって楽しんでいたのは、お父さんたちかもしれませんね。

ゲームを終えて、みんな景品（少し早めのバレンタインチョコ）をもらって、帰りました。

お子さんが入所されているお父さん・お母さんだけの参加も歓迎です。次回も冬に開催予定ですので腕を磨いておいて下さいね。



人権フェスタ

平成 26 年 11 月 15 日（土）
和歌山ビッグホエール

今回もブース展示で参加しました。自閉症・発達障害の啓発ポスターの展示、子どもたちの絵画作品の展示、書籍の販売、啓発パンフレットの配布、支援グッズの展示とポラリスセンター長辻先生の発達相談会などを行いました。

それぞれの班単位と役員で、ブース当番を担当しています。ずっとブースに付きっきりではなく、順番にステージを観にいたり、模擬店でお昼を食べたり、作業所の商品



を買ったりと、みんなそれぞれ楽しんでいます。

今回は、一日だけの開催で、講演会場が別に設けられていたため、ステージのダンスや演奏が凝縮されていて、何人もの懐かしい人に会う事ができました。

ブース当番を下された方々、ありがとうございました。今回参加できなかった方、次回にご協力下さいね。きっと楽しい事が待ってますよ。



療育セミナー

平成 27 年 1 月 17 日 (土)
中央コミュニティセンター 多目的ホール小

講演 「知的障害を伴う自閉症スペクトラムの支援を考える」
～ライフステージの視点を持って～

独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
事業企画局研究部部長 志賀 利一 氏

自閉症者ノゾムさんが生まれてから 80 歳で亡くなるまでの一生をライフステージごとに切り取って、それぞれの時期の困難な状況や問題や支援のポイントなどを、わかりやすくイメージしながら、丁寧にお話してくれました。壮年期以降のお話では、親の老いや親亡き後の生活までリアルにシュミレーションされていて、とても興味深かったです。

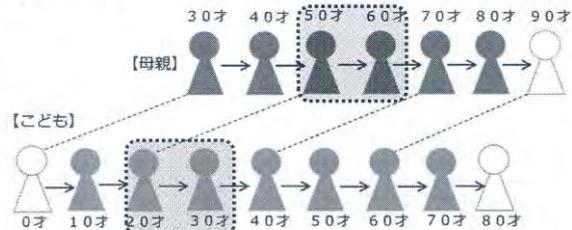


メリハリのある人生の節目を作る時期

背景

大人の生活は、職業生活を除くと、能力アップを目指して周囲からプレッシャーをかけられる機会は少なくなる。自ら生活スタイルを選択し、必要な支援を周囲に求めることが原則に。しかし、同年代の多くの人は、職場で部下を育てる、キャリアアップという新しいプレッシャーに立ち向かっており、また伴侶を得る、子どもの誕生と子育ての時期でもある。さらに、住宅の購入、生命保険の加入など、個人としては大変大きな経済活動の選択を行うことになる(大きな節目がたくさん)。もっとも活動的な時期に、どのような生活スタイルで臨むか、大切に計画し、実施に移す時期。そして、将来に備えての身体の管理も・・・

親の年代から考えると、子どもの生活に影響力を与えられる最後の機会と考えるべき？



就学期お母さんの交流会

12月12日(金)	参加者	10名(会員限定)
2月24日(火)	参加者	9名(うち一般3名)
3月12日(木)	参加者	5名(会員限定)

学期に一度ずつ、会員限定と一般(会員外)参加ありで開催している就学期お母さんの交流会ですが、幼児さんから高校生までのお母さんが参加しています。赤ちゃん連れのお母さんもたまに居て、場を和ませてくれています。

話の内容は、自閉症・発達障害児ゆえのこだわりによる友達や兄弟とのトラブル、身辺自立の困難さ、また就園・就学の悩みなど様々ですが、結構深刻な問題も笑いながら話

せるというのは、みんな同じ自閉症児の母親だからではないでしょうか。

まわりの人に相談できない事も、ここでお菓子をいただきながら話して、笑顔で帰れる！そういう会として、定着できるといいですね。



3月12日の会員限定の時には、初めての試みとして、年長の方の母親クッキングにならい“いちご大福”を作ってみました。



～白玉いちご大福のレシピ～

- ① いちご 8粒は水洗いして水気を切り、白あん 240g を 8個に分けて、いちごを包み丸めておく。
- ② 耐熱ボウル(なければ丼)に白玉粉 100g を入れ、水 120cc を少しずつ加えてとかし、砂糖 50g を入れてかき混ぜる。
- ③ ラップをかけて電子レンジ(500W)に入れ、2分間加熱する。
- ④ 電子レンジから取り出して、しゃもじでかき混ぜて、粘りを出す。
- ⑤ 再度ラップをして1分間電子レンジで加熱する。
- ⑥ 取り出して、もう一度しゃもじでかき混ぜる。
- ⑦ 再度ラップをして1分間電子レンジで加熱する。(表面がふくれてきたら、止めること)
- ⑧ 片栗粉適量の上に、⑦を取り出し、手に粉をつけてから8個にちぎり、①を包み、丸くする。

※電子レンジのW数によって、時間は1～2分間前後します。



岡先生のワンポイントアドバイス②①

「自閉症児者におけるタブレット端末の可能性について」

和歌山県立きのかわ支援学校 岡 潔

(私事ですが14年ぶりに転勤しました)

障害者の権利に関する条約において、合理的配慮の否定は差別とみなされます。ここでいう合理的配慮とは、個別に必要とされるものであり、障がいのある子どもが障がいのない子どもと同じ土俵で学べることを意味します。人と違うやり方を本人が認め、また周りも認めることができれば、子どもたちの可能性は無限に広がっていくのです。

20年前、私は自閉症児にVOCA（コミュニケーションエイド）を用いてコミュニケーション支援を図ったり、絵カードを用いてことばの理解を促したりしながら実践を行っていました。その頃の支援機器は1台が高額な上に、大きくて重くて携帯性に難がありました。いつか携帯電話や腕時計のようにコンパクトで身に付けられるものになればいいのにと考えていました。

20年後の今、スマホ、タブレットなどが流行し、先日は腕時計型の端末も発表され注目されています。支援機器が続々と発表されている昨今、自閉症児者はさぞ生きやすくなったかと思いきやそれほどでもありません。なぜなのでしょう？

自閉症児者のタブレット活用も、もっぱらYouTubeを見たり、音楽を聞いたり、ゲーム機として利用したり余暇に活用されていることが多いですね。確かに余暇のレパートリーが広がった点においては評価できるのですが……。

また、Wi-Fiなど無線LANの環境がなければ、ただの箱と言う人もいるくらい、活用の幅を狭くとらえている人も多いようです。タブレットはネットにつながっていなくても、事前に取り入れたアプリや機器のもつ機能で多くのことができます。

まずはスケジュール。予定など見通しをもって行動できることは自閉症児者には何よりも大切な

ことです。活動に見通しをもてれば参加する気持ちも自然と高まってきますよね。

次にあげたいのは、コミュニケーションツールとしての活用。VOCAや絵カードで人に伝えられたことは、当然タブレットでも可能です。自分の伝えたいことを選択して伝えることができるなんて素敵なことだと思いませんか。その場で書いて伝えることも可能にする筆談アプリなどもありますよ。とにかく人とつながる体験が心を豊かにします。

ただ、気をつけてほしいことは、支援機器は決して人を管理したり指示したりするものであってはならないということです。タイマーアプリや歯磨きアプリなどもよく使われているのですが、待たされるもの、やらされるものであっては主体性や意欲にはつながっていきません。勉強関係のアプリもたくさんありますが、自分で学ぶ楽しさを感じ、自ら深めていけるものでなければ意味がないのです。

アプリなんて言いましたが、タブレットそのものにはカメラ機能があります。これをうまく活用できれば、好きなものを撮りためてアルバムとして見て楽しめますし、文字を書き写すのが苦手な人は書かれているものをパチリと撮っておけば、後からゆっくり確かめられるといった記憶を助ける便利なツールとなります。

耳寄りな話ですが、特別支援学校高等部1年生から就学奨励費でICT機器購入に対して5万円までの購入予算(学用品として)がつくことになり、県内の支援学校でもiPadを導入する取り組みが始まっています。これは画期的な制度だと思えますね。

勝手な使い方をしないよう制限をあらかじめ設定しておくなどの配慮は必要ですが、とにかく触って慣れることが一番。子どもの方がきっと使い方は早く覚えますよ。子どもたちがもつ力を最大

限引き出してくれるタブレットの魅力は見逃せません。子どもたちの能力の一部として、生活に必要なツールとしての活用が広がっていくといいですね。

「この10年を振り返って」

和歌山市分会会長

藤原 清治



日頃は、協会の運営にご理解、ご協力いただきありがとうございます。
10年前、私は津田前会長から旧紀北分会会長を引き継ぎました。当時の私は協会の行事、活動にほとんど参加したことがなかったので、こんな私が会長になって良いのか不安でいっぱいでした。そんな中、同じ時期に副会長に奥野さん、事務局に江川さんと尾崎さんが就任されたので、この若い3人に支えられながら、何とか紀北分会会長としてスタートしました。そして、分会長にも慣れた頃、和歌山市分会の設立が決まり、今度は和歌山市分会の会長になることも同時に決まりました。

当時の私は、これを節目と考えて和歌山市分会の設立を見届けた後、分会長を退任するつもりでしたが、平成20年6月の和歌山市分会の設立総会の頃には、平成22年の全国大会の和歌山での開催が決まり、当時の役員で構成する全国大会準備委員会の設立、翌平成23年のNHKフォーラムの和歌山での開催ということもありましたので、退任の件は一旦封印して目の前の行事に集中することにしました。

こうして、矢継ぎ早に大きなイベントを会員さんとともにこなして行くうちに瞬く間に数年が経過し、現在に至ってしまいました。

今あらためて振り返ると、大きな行事を行うことが即ち啓発活動に繋がっていたとは思いますが、その一方で、分会レベルでは小さくて地味な活動であっても日頃から継続して行うことも大切と感じています。

また、私は、今も奥野副会長、尾崎副会長、江川事務局長を中心とした和歌山市分会の役員の皆様に支えて頂きながら何とか和歌山市分会の会長をさせていただいていますが、早く男女を問わず新しい次のリーダーが現れてくれることを切に願っています。10年はやはり長すぎると思います。和歌山市分会が活性化して次のステップへ進むためにも是非ともよろしくお願い申し上げます。

事務局から

紙面に載せられませんが、年4回行われている「母親クッキング」も毎回盛況で、先輩お母さん方のお楽しみとなっている様です。いつも季節を感じられる盛りだくさんなメニューで、うかがっているだけでお腹がすいてきます。

今年度も、新しくやってみたい事や行事などがありましたら、ぜひ事務局までご連絡下さい。たくさんのご提案をお待ちしています！

(事務局) 江川かがり

編集スタッフ： 尾崎富久子・江川かがり・奥野美和・植野比呂美 《発行》イコラ編集局（連絡先）尾崎富久子
e-mail: fukuko2939@gmail.com

※ イコラはWeb版も出しています。ぜひカラーでもお楽しみ下さい。バックナンバーもご覧いただけます。
和歌山県自閉症協会ホームページからどうぞ！！